

<校内研修・自主研修用>

2 児童生徒の学習状況や道徳性に関する評価



(1) 資質・能力の柱としての道徳性

道徳性を養う学習と、道徳教育で育成を目指す資質・能力の整理
(中央教育審議会教育課程部会 審議まとめより)

教育課程部会
審議まとめ
第2部「道徳教育」
別添 16-1

道徳教育で育成する資質・能力としての道徳性と、道徳教育・道徳科の学習の過程との関係をイメージしたもの。
道徳教育、道徳科の意義、特質から、これらの要素を分節して評価を行うことはなじまない。

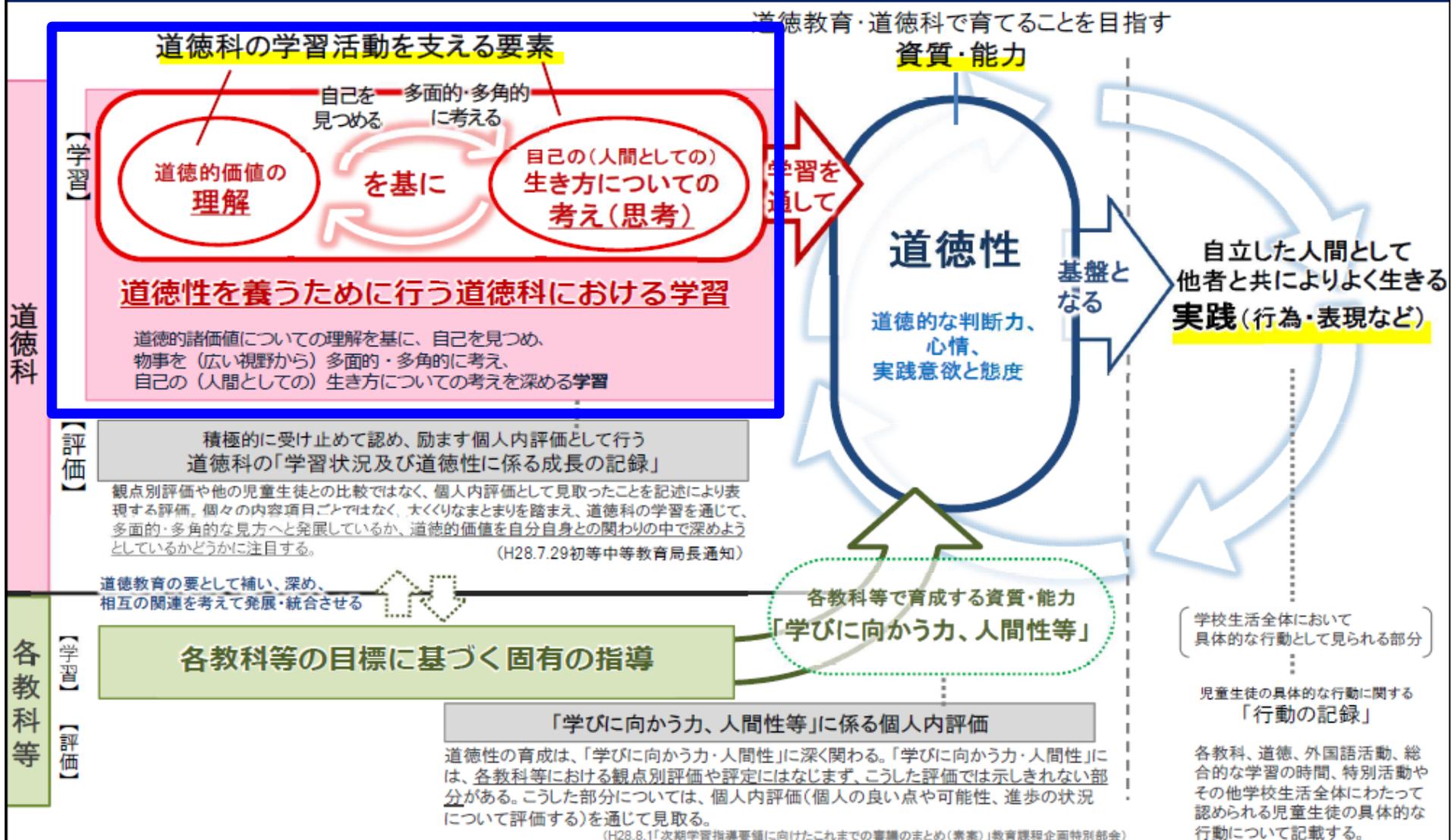
	道徳的諸価値の理解と 自分自身に固有の 選択基準・判断基準の形成	生徒一人一人の 人間としての在り方生き方 についての考え(思考)	人間としてよりよく生きようとする 道徳性
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値の理解に基づき、自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成すること 	<ul style="list-style-type: none"> 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自分自身の人間としての在り方生き方についての考えを深めること 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性 道徳的価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力(道徳的判断力) 人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情(道徳的心情) 道徳的価値を実現しようとする意志の働き、行為への身構え(道徳的実践意欲と態度) など
小学校、中学校	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的諸価値の意義及びその大切さなどを理解すること 人間としてよりよく生きる上で、道徳的価値は大切なことであるというこの理解 道徳的価値は大切であっても、なかなか実現することができないことの理解 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は多様であるということをも前提とした理解 など 	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深めること (中学校) 人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索する 人間についての深い理解を鏡として行為の主体としての自己を深く見つめる (小学校) 道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止める 他者の多様な考え方や感じ方に触れることで、自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめる 生き方の課題を考え、それを自己(人間として)の生き方として実現しようとする思いや願いを深める など 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の(人間としての)生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性 道徳的価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力(道徳的判断力) 人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情(道徳的心情) 道徳的価値を実現しようとする意志の働き、行為への身構え(道徳的実践意欲と態度) など
	道徳性を養うための学習を支える要素		道徳教育・道徳科で育てる資質・能力

(2) 学習状況の評価

学習のプロセスを評価すること

小・中学校における道徳教育と資質・能力（イメージ）

別添16-2



※ 本図は道徳性の育成に関わる学習(活動)に着目して整理したものであり、この他にも、道徳性が養われる過程には様々な整理の仕方があると考えられる。(例えば、実践を通して道徳性が養われることもある。)

(3) 道徳性に係る成長の様子

- ① 児童生徒に育む道徳性について理解する。
- ② 道徳性の発達の方角性を押さえて、その成長を見取る。

※各学年の段階に到達しているかどうかという評価ではなく、児童生徒が以前に比べてどのように成長したかという個人内評価であること。

※一つの授業だけでなく、授業を積み重ねる中で児童生徒理解を深めながら、道徳性に係る成長の様子をとらえていくことが大切である。

(4) 大くりなまとまりを踏まえた評価

「大くりなまとまりを踏まえた評価」について



「個々の内容項目ごとではなく、大くりなまとまりを踏まえた評価」とは、具体的にはどのようなことか。評価を行うに当たって、個々の内容項目に触れてはいけないのか。

道徳科の評価は、一つ一つの内容項目ごとに、その内容項目についてどのくらい理解したかということの評価するものではなく、学期や学年など一定のまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価するということを示したものです。

なお、一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れるということは考えられます。

